

週刊 学びのコミュニティー

第23号

平成21年7月29日発行

特別授業 日食観測会

7月22日(水)朝、前夜から降り続いていた雨は上がりましたが、生憎の曇り空。そんな中、予定通り日食観測会が行われました。グラウンドには200人くらいの人が集まっていたのでしょうか。夏休みに入っていたので、高校生や子ども連れの親子の姿も多く見受けられました。天文部の学生さんが製作してくれた日食グラスを通して、また、曇り空のため肉眼でも空を見上げることが出来ました。雲に覆われた空を見つめ、太陽が顔を出すのを今か今かと待つ参加者たち。雲間が切れそうになる度、期待の声が上がりました。ほんのわず

かな時間ではありましたが、三日月状の太陽を観測することが出来、私も近くの方と感動を共有しました。肉眼で見るのが精いっぱい、カメラに収めることは出来ませんでした……

食が最大になる時間帯は、厚い雲に隠れたままで、残念ながら大きく欠けた太陽を見ることは叶いませんでした。しかし、その場にいた全員が天候の回復を願いながら空を見つめ続けた、思い出に残る日食観測になったのではないかと思います。



1st International Conference in Higher Education and Lifelong Learning

開催のお知らせ

31 July (Friday)

全学共通教育棟 4号館304教室にて
14:30~18:30

今年度初の大きなイベント、

『第1回 高等教育・生涯学習 国際会議』が行われます。

Session 1では、東アジアにおける高等教育と生涯学習の現状を報告し合います。発表者は韓国代表 釜山大学 李教授、中国代表 日本語教師の劉さん。そして日本からは学生、社会人、教員、それぞれから話題提供があります。

Session2にはフリーディスカッションの時間を設けました。大いに語り合って頂ければと思います。

Session3 では学生支援室に場所を移して、“大学の発展のために 新しいフィールドとしての地域科学と生涯学習”をテーマに、お茶を頂きながらの意見交換を予定しております。

みなさまのご参加を
お待ちしております！
お気軽にお越しください。



【報告】大学生研究フォーラム 2009 から

7月25(土)・26日(日)に**大学生研究フォーラム 2009「大学生の何が成長しているか、その中身を考える」**が京都大学で開催された。

理論と実践とをつなぐ問題や見方について、大学教育やキャリア教育などから様々な報告があった。パネルディスカッションでは、教員と学生とが3組報告する工夫が見られ、活発な議論があった。

ここでは、最も興味を持った“**ラーニング・ポートフォリオ**”について紹介する。

ラーニング・ポートフォリオとは、学生が学習過程を省察し、学習成果を裏付ける証拠資料にもとづいて記述したものである。弘前大学 21 世紀教育センター 土持ゲアリー法一教授は、学生の学習・生活状況に関する調査報告書から、学生の「一ヶ月の読書量」が減少傾向にあるのに対し、「授業の出席率」がきわめて高く、増加傾向にあることに注目した。学生は、「基本的にまじめだが、知的刺激に乏しい。」と結論付け、学生を授業に巻き込む「仕掛け」が必要であると考えた。そこで、授業前に、必ず、附属図書館で指定された図書を読んで、証拠資料として「指定図書課題・講義フィードバック」用紙にまとめ、図書館カウンターで「図書印」を押して提出させた。授業は、予習しないで授業を受けてはならないことを原則とした。そのうえで、授業ごとに「学習実績記録」なるものを作成させ、証拠資料としてファイルを保管させた。そして、最終的に授業シラバスの「到達目標」がどのように達成できたといえるか、また、省察的記述として、ラーニング・ポートフォリオをまとめさせている。

～ラーニング・ポートフォリオの活用～

土持教授は、15回の授業全体をどのようにつなげるかで、さらに深い学習に結びつけられ、授業は教員と学生がともに「創る」という意識が必要であると報告した。

受講した人文学部 3年の岩崎夏千さんは、ラーニング・ポートフォリオを書くにあたり、すべての指定図書課題や講義ノートを読み返し、学習プロセスを省察し文章化することで学習内容の復習にとどまらず、そのとき自分が何に疑問を感じ、どのように解決したのかを振り返ることができた。大学生として何をどのように学んでいくかを改めて見直すきっかけとなり、これからの自分の学習スタイルを改善していくことにも大いに役立った。また、教職を取得するというキャリア形成につながった。能動的に学ぶことは自分の可能性を広げてくれると報告した。

今回、土持教授と岩崎さんとの報告を聴講し、学生一人一人が省察により学習プロセスを「振り返る」ことが、真の学びの定着につながっているのだと思った。また、知識を与えることに偏りがちである講義形式の中で、学生がそれらを受け止めたという足跡を目に見える形で残してあげることが、学習の達成感やさらなる向上心を掻き立てることにつながるということを確認した。一人一人の学生が、授業を通して何かを学び、自分自身が何か高められたと感じられるような、「振り返り」の機会と十分な時間とをつくってあげたいと感じた。

(全学共通教育センター 嵯峨山和美)



～編集後記～

テストやレポートに苦しんでいる学生さんも多いかも知れませんが、間もなく夏休みが始まります。未だ新型インフルエンザの勢力が衰えず、十分な注意が必要ではありますが、普段なかなか出来ずにいることにじっくり取り組んだり、興味がある場所へどどん足を運んでみたり…実りある夏休みになることを願っています。新学期、思い出話が聞けることを楽しみにしています。(境)